

たなればのめといはる、とも給ずとて不給、其比かくれなき奴といはる、人も六ほううでだ  
て我意を盡す人も、慇懃の座敷又は親方老人の前にて、たばこ吞人なし、

〔大和本草<sup>六</sup>民<sup>六</sup>用<sup>草</sup>〕烟花<sup>○中</sup> 初ハ竹筒ニ入テ火ヲ吸フ、後ニ眞鍮ノ煙筒ヲ用、請取ワタシノ禮アリ、今ハ其禮スタレリ、

〔盞簪錄<sup>四</sup>雜<sup>載</sup>〕酒始乎儀狄、其來也遠矣、茶則始於晉、今通五方爲日用之物、今日人家見客必設烟具、先於茶酒、此則百年前所無、傳諸者舊寬永中自南蠻國來、其始以種植甚廣、致妨本業、官禁甚嚴而不止、至於今日、其用甚盛、每爲應酬之乘草、

〔翁草<sup>五</sup>〕當代奇覽と題せるものに、あらゆる雜談有り、十が一爰に拾ふ、

一寛文の比迄有し古老の云く、多波粉の渡りしは近き事也、<sup>○中</sup> 其時分世にこせ瘡と云物はやりしに、多波粉吞む人は、此煩ひ無きと云ひはやらせて、世にはやり廣まりし也、

〔煙草考〕煙草所用于世、蓋百有餘年、至今則遍寰宇、無處不植焉、无人不嗜焉、饗饗會宴野步舟行、登山臨水、花下月前、對雨賞雪、騎旅寓店、群談獨居、幽樓市廛、讀書吟詠、起居坐臥、無處不好矣、無時不宜矣、<sup>○中</sup> 余<sup>○向</sup> 震<sup>○軒</sup> 幼時、見世人服烟者、吸烟數口、不噴而吞焉、少時悉從鼻孔出、當時人皆然矣、其吸而不吞者、此謂伊達多波古、或花多波古、只風流奢子徒爲容態吸之、實不吸也、今世人吞納者鮮矣、間老翁有之而已、

〔おほうみのはし〕久世大納言、<sup>通</sup>夏<sup>延</sup>享<sup>四年</sup> 癸<sup>癸</sup> ものへまうづとて湯あみ給ひけるに、此湯には穢れたることあるべし、火をあらためてこそ更におほせよとて、あみはてずしてあらためさせ給ひけり、後に火たきたるもの、あやまちて烟草をたびて待ると申しけり、此大納言の常にかゝることおほしければ、只人にはおはせずとぞ申しける、

〔ひとりね<sup>上</sup>〕多葉粉ににはひを入れて吞人多し、青樓の人などすべて有、伽羅など入てのむ事、一入